

ハンドボール No. 24

Japan
Handball
Association



- 社会人
- 学生
- 高専
- 高体連
- 中体連
- 小学生
- 県協会

- 全国大会
- ブロック大会
- 都道府県大会
- 地区大会

- 男子
- 女子

試合番号 **オムロン-女30**

年月日 **2019年8月5日(月)**
大会名 **令和元年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会**

公式記録用紙

A		県立氷見高等学校						霧島市立国分中央高等学校						B	
都道府県		市町村		会場		会場						回戦			
熊本県		山鹿市		オムロン鹿陽センター						2回戦					
前半	A	B	最終結果	A	B	第1延長	A	B	第2延長	A	B	7mAD-AD-AD	A	B	
7m得点/総数	A		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数				
2/3	1	2後半	3	2023			1	2	3	3/3					

No.	県立氷見高等学校	G	W	2'	2'	D	DF	No.	霧島市立国分中央高等学校	G	W	2'	2'	D	DF
1	長井 彩夏							1	山元 蒼音						
2	林 蘭々香							2 C	赤塚 未空	4					
3	小島 楓	2						3	永山 愛女			1			
4	桶 遥香	3	1					4	大田 歩咲	1		1			
5	平井 莉乃	6						5	柏木 凜						
6	林 愛璃	3						6	上田 真由						
7 C	中尾 萌乃							7	中村 日南						
9	川口 咲楽声	1						8	前屋敷 郁佳	1					
10	長井 愛奈	1						9	川島 空来	11					
11	曾場 望心	2						10	佐藤 若奈	2					
13	村田 裕理	1						11	高城 美空	3					
14	松井 せり	1						12	小山田 玲那						
15	瀧元 朱梨							13	安水 菜						
18	川口 捺那							16	坂本 晶						
役員A	稲積 翔平							役員A	庄屋 亮二						
役員B	谷口 聡一朗							役員B	石井 彩子						
役員C	畑中 琴李							役員C	川原 鈴						
役員D								役員D							

A	稲積 翔平	チーム役員A署名	庄屋 亮二	B
---	-------	----------	-------	---

レフェリー	小濱 沙也香	若森 紗羅良	小濱 沙也香	若森 紗羅良
TD	本田 真吾	梶原 健	本田 真吾	梶原 健
MO				

得点(G), 警告(W), 退場(2), 失格(D), 報告書付き失格(DF) 特記事項に報告書として内容を記入

ハンドボール No.26

令和元年度全国高等学校総合体育大会
高松宮記念杯第70回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

戦評

開催日	2019年 8月 5日 月曜
会場	オムロン鹿陽センター
種別	女子
回戦	2回戦・30

スコア	チーム名	総得点	前半	総得点	チーム名
	県立氷見 (富山県)	20	22	15 — 12	霧島市立 国分中央 (鹿児島県)
後半					
	5 — 10				
	第1延長		第2延長		7MC
	—		—		—
	—		—		—

※第1延長・第2延長及び7MCの得点は総得点に加算してください。

戦評	前半	<p>国分中央の左のエース川島のミドルシュートで幕を開けたこの試合。氷見がすぐさま小島、長井らのサイドシュートで得点を奪い返すと、前半はそのまま一進一退の攻防に突入する。氷見の司令塔桶が一对一やステップシュートなどの個人技で得点すれば、国分中央は川島のアウトサイドからのシュートや7mスローなどで応戦する。しばらく氷見が先行する展開が続くが、川島とピヴォット高城のコンビで3連取に成功した国分中央が、19分過ぎに逆転に成功する。しかし、氷見も村田のカットインシュートを皮切りに、林のポストや平井のミドルシュートで点を重ね、試合の流れを渡さない。28分小島の速攻からの得点で3点差として前半を折り返す。</p>
	後半	<p>後半立ち上がりは、一変して国分中央のペースで始まる。エース川島のミドルシュートと高城のポストシュートで2点を返し、1点差に詰め寄る。しかし、その後は両チームとも攻撃でのミスが目立ち始め、ロースコアの展開に。氷見は、後半22分過ぎまで、松井のポストシュートの僅か1点のみ。それに対し、国分中央は16分にキャプテン赤塚の豪快なミドルシュートで同点に追いつくと、相手ミスから、またも赤塚が速攻を決め、ついに逆転に成功する。焦りが見え始めた氷見は、再三のシュートチャンスを国分中央のゴールキーパー山元に阻まれ、1点が遠い。そうすると、流れは完全に国分中央に傾く。終盤ようやく落ち着きを取り戻した氷見が、曾場と柏木の得点で1点差まで詰め寄るが、時すでに遅し、氷見にとっては気の残る一戦となった。</p>

記入者 三村 圭司